

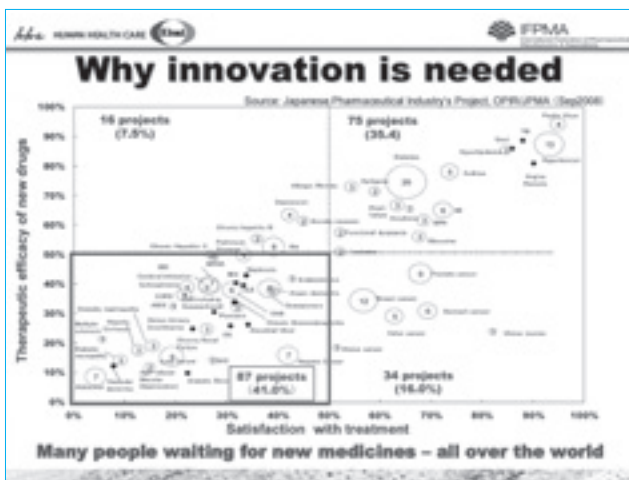
国際製薬団体連合会(IFPMA)総会にて 内藤晴夫製薬協副会長が講演 医療におけるイノベーションの役割

トピックス

開会挨拶に引き続いて執り行われた冒頭のパネル・ディスカッション「医療におけるイノベーションの役割 “How can innovation advance health care?”」において、内藤晴夫IFPMA副会長/製薬協副会長が出席し発表をしました。そこでの発表内容を紹介します。

患者様のいまだ満たされていない医療 ニーズに対し、求められる新薬創出

イノベーションである新薬の創出が、どの程度医療に貢献しているかチャートを用いて説明します。**スライド①**は医師の治療に対する満足度と薬剤の貢献度を表し、○で囲まれた数値は、当該疾患における開発中の品目数を表しています。満足度と貢献度の中央で分けた4領域のうち、左下の太線で囲んだ部分は、薬剤による治療貢献度、治療に対する医師の満足度の両方が不十分な、いわゆるアンメット・メディカル・ニーズです。開発中の製品の41%がこの領域に該当し、アンメット・メディカル・ニーズに応えようとする企業の姿勢がうかがえます。これは日本の調査ですが、発展途上国ではどうでしょうか。

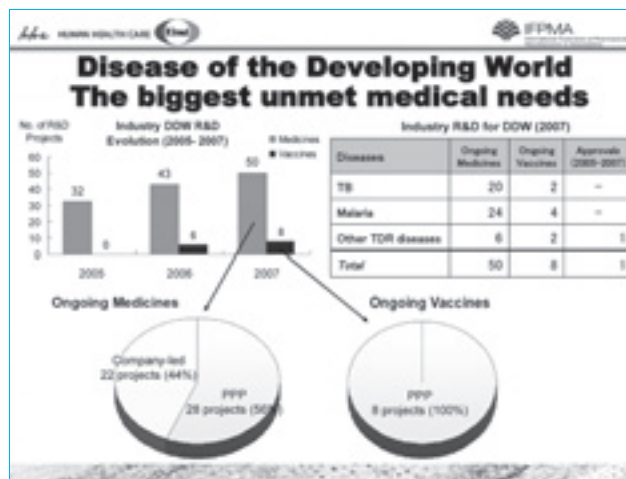


スライド①：医師の治療に対する満足度と薬剤の貢献度

先進国のみならず発展途上国でも深刻な アンメット・メディカル・ニーズ

スライド②では、2005年から2007年までの3年間、発展途上国に特有な熱帯性感染疾患に対する

研究開発プロジェクト数を左上グラフで示しています。これらの研究開発プロジェクトは、円グラフが示すように主に官民パートナーシップ(PPP)により進められています。熱帯性感染疾患への研究開発プロジェクトは年々増加していますが、右上表にあるように、2007年には医薬品を対象とする研究開発プロジェクト計50、ワクチン計8のプロジェクトが進行中ですが、承認に至ったプロジェクトはまだ1製剤しかありません。熱帯性感染疾患の治療や予防ワクチンに対するアンメット・メディカル・ニーズの充足に向け、製薬産業は今後、官民パートナーシップの強みを生かしつつ、いっそうの研究開発努力が求められます。



スライド②：発展途上国のアンメット・メディカル・ニーズ

知的財産権保護の強化が発明を促す

日本では物質特許導入(1976年)以降、日本での研究開発が促進され、日本オリジンで世界に通用する新薬は一気に拡大しました。**スライド③**の日本の例から、知的財産権保護強化によって発明が促進されたことがよくわかります。



スライド③：日本の物質特許導入が新薬創出を促進

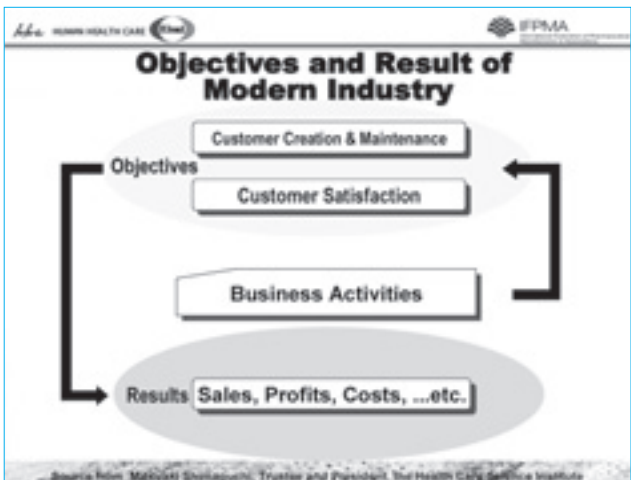
今後医療におけるイノベーションの役割は 発明の成果の浸透 “diffusion” が鍵

本テーマである、イノベーションの医療への貢献についてお話しします。製薬産業が広く世界の医療に貢献するには、発明の成果である医薬品や技術を、発展途上国へ “diffusion” (浸透) することが鍵だと私は考えます。知識や技術の “diffusion” の活動例として、製薬協がこれまでネパール、ラオス、カンボジアで行ってきたキャパシティ構築が挙げられます。これは一橋大学・野中郁次郎先生の知識創造理論によると、現場での体験などの暗黙知をマニュアルの作成などの形式知に転換させる知識創造 (knowledge creation) のプロセスを上手く回転させることにより、知識や技術の “diffusion” が起こり、結果として現地でのキャパシティ構築が行われるというものです。言い換えれば、現地に根ざした知識の獲得、また実際に活用できる能力やマニュアルの構築には “diffusion” は欠かせないものであるということです。

モノの “diffusion” という観点では、発展途上国における必須医薬品へのアクセスを改善し、入手可能な環境を整備することが重要です。医療保険制度、提供体制などのインフラ整備も急務ではありますが、製薬企業としては、必須医薬品の価格を検討しなければならないと考えます。具体的には、①官・民による適切な財政支援、②効率的な流通システム、③税金や関税など過剰なマーク・アップの是正、④一般の庶民が購入できる価格で必須医薬品を提供する企業努力、の4点が挙げられます。

これからの製薬企業のビジネスモデルは 患者様満足の追求を目的とすること

私は製薬産業の目指すべきビジネスモデルは、患者様の満足を追求することがビジネスの第一義であり、それを真摯に追求すれば、売上や利益は結果としてもたらされると考えています。なお、患者様満足の向上には、①患者様のアンメット・メディカル・ニーズに応え、②高品質の医薬品を安定的に供給し、③安全性や有効性に関する情報提供を行うことの三つの側面からのアプローチが重要だと思います。今後、“diffusion” を通してより多くの患者様満足を向上できるよう、われわれは全力を尽くす決意です。



スライド④：製薬企業のビジネスモデル



スライド⑤：患者様満足を目指すことが企業のあるべき姿 (国際委員会 欧米部会 葛西 美恵)

参考文献
 IFPMA (2007) Pharmaceutical Industry R&D for Diseases of the Developing World, IFPMA Status Report, 2 Nov 2007
 笹林幹生 (2006) 新薬の開発・上市と治療満足度の変化、医療産業政策研究所 政策研ニュース(No.21)